

石川県立小松特別支援学校 令和2年度 自己評価計画書（最終評価）

重点目標	具体的取組（主担当）	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定	分析及び今後の課題
1 指導力の向上	【授業改善】 学習指導要領の趣旨に沿った学習目標の設定、学習評価に取り組み、「個別の指導計画」に基づいた授業改善を図る。 (教務課)	【努力指標】 「個別の指導計画」の作成にあたって、新学習指導要領の趣旨を意識した目標・評価を実施することができた。	新学習指導要領の趣旨を意識した学習目標の設定や学習評価を行い、授業改善を図った教員は A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B以上達成	B 教員を対象にアンケートを実施した結果、授業改善を行ったとする教員は89%であり、中間評価の71%を上回った。全教員が授業改善を行ったという結果には至らなかったが、中間評価で授業改善が不十分だとした教員から、「学習指導要領の内容を再確認し、授業計画の見直しを図った」「目標や評価のポイントを明確にすることで、後期に授業改善を図ることができた」等の回答があり、授業改善に対する意識が高まったといえる。
		【満足度指標】 「個別の指導計画」の目標や達成のための指導は妥当であり保護者の思いが反映されている。(保護者アンケート)	「個別の指導計画」の目標や指導は適切であり、保護者の思いが反映されていたか A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上達成	A 保護者アンケートの結果、授業参観等の様子から、学習内容や手立ては児童生徒の実態に合っていたと感じた保護者は88%であり、個別の指導計画に基づいた指導とその評価についても期待に沿ったものであったと回答している。前期のA評価と併せて「個別の指導計画」に対する保護者の満足度は高かったといえる。
	【研修の充実】 授業改善のために講師を招聘し、研修や授業参観等を行いながら授業づくりや指導法を学ぶ。(研修研究課)	【成果指標】 研修で講話の内容や講師の助言を受けて、自分の授業を改善することができた。	研修会を参考にして授業改善ができた教員は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上達成	A 中間アンケートでは80%の達成であったが、最終アンケートでは96%だった。また、「より授業改善に取り組むことができたか」を尋ねるアンケートでも96%達成できた。さらにA（授業改善できた）と回答した教員も増え、講師を招聘しての研修や他学年・他学部の授業参観による学びが授業づくりや授業改善につながったと考える。一方、巡回サポート等で勤務日や勤務時間が限られる教員の中には、校内研修や部研究会への参加が難しくなる課題が見られたので、できるだけ全教員が在校時に部研究会を行う、事前に資料を配付し、意見を記入してもらおう等して学部全体で取り組めるよう留意する。
2 災害に備える	【危機管理マニュアル見直し】 地域の専門家と連携し、土砂災害避難訓練やマニュアル改善に役立てる。 (学校安全課)	【努力指標】 本校の土砂災害の発生の恐れや避難場所、避難方法について専門家よりアドバイスを得て、教職員に周知する。	専門家より得たアドバイスを土砂災害避難訓練やマニュアルにおいて改善できた項目は A 10項目以上できた B 8項目以上できた C 5項目以上できた D 5項目未満しかできなかった	B以上達成	C 今年度防災士より貴重なアドバイスを得る機会が2度あり、早目の対応や臨機応変に対処することの重要性について教えていただいた。課内で検討し、訓練やマニュアル改善に役立てるとともに、職員会議の場で周知するよう努めた。マニュアルに様々な想定を盛り込むことで5項目以上改善できたのでC評価とする。 今後はさらに実際に即した訓練を行い、有事の際に臨機応変に対応できるよう様々な想定について検討を重ねていく必要がある。
3 キャリア教育の推進	【積極性の育成】 児童が、スポーツの楽しさ・身体を動かすことの楽しさを感じられるように、学習活動の中でニュースポーツに取り組む。 (小学部)	【成果指標】 ニュースポーツへの取り組みを生かして、児童がスポーツを楽しむ、体を動かすことへの積極性が育まれたことにつながったか。	ニュースポーツへの取り組みを生かして、児童がスポーツを楽しむ、体を動かすことへの積極性が育まれたと感じる教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上達成	A 小学部教員にアンケートを実施し、96%の教員が児童に積極性が育まれたと答えている。中間評価での課題を受け、児童の実態に応じて段階的に取り組めるよう複数種類の用具を準備したり、目標物の大きさや距離を変えたりしたことや、視覚的にゲームの過程・結果がわかるようにしたことなどが高評価につながった。課題としては回数数の保証や児童が進んで取り組めるような更なる工夫が挙げられた。今後も児童が体を動かすことの楽しさを感じ、積極性が育まれるよう取り組んでいきたい。

石川県立小松特別支援学校 令和2年度 自己評価計画書（最終評価）

	<p>【作業学習の充実】 学部各作業班で、新製品の開発や地域活動の活性化等が求められており、作業学習の充実を図る必要がある。 (中学部・高等部)</p>	<p>【成果指標】各作業班が、作業製品や外部活動の目標を持ち、計画的に実行する</p>	<p>各作業班の目標が達成された割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>B以上で達成</p>	<p>A 中間評価で目標が未達成の作業班3班に、目標の達成状況について問うたところ、2つの作業班が目標を達成しA評価となった。生徒によるアイデアや顧客の要望を取り入れた新製品の開発を行い、学校祭で販売活動を行った。新製品の開発や販売活動をとおして、生徒の作業意欲が向上し、接客態度や技能の向上につながった。今後も、新製品の開発を行い作業学習の充実を図っていく。</p>
		<p>【満足度指標】 本校の外部販売、作業製品等が充実していると感じている。 (保護者アンケート)</p>	<p>本校のキャリア教育について理解し、本校の職業教育が充実していると感じる保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>B以上で達成</p>	<p>A 保護者を対象に、学校祭での作業製品販売活動に関するアンケートを実施した。保護者の90%が、本校の作業製品に満足し、新製品の開発やクオリティーの高さを評価した。また、保護者の89%が生徒の接客対応に満足し、協力して販売する姿や丁寧に接客する姿を高く評価した。日頃、作業学習で学んでいる挨拶や言葉遣いが活かされた。今後もホームページの充実を図り、学部だより等で保護者に新製品情報や生徒の活躍場面を紹介していく。</p>
	<p>【外部と連携した授業づくり】 農業法人等への職場開拓に取り組み、雇用促進セミナーへの参加促進や産業現場実習の実施を目指すとともに、作業学習等において農業に関する学習の充実を図る。(進路支援課)</p>	<p>【努力目標】 農業法人等での産業現場実習を実施できた。または雇用促進セミナーへの参加があった。</p>	<p>農業法人等の産業現場実習および雇用促進セミナーへの参加が合わせて A のべ3社以上 B のべ2社 C 1社 D 0社</p>	<p>B以上で達成</p>	<p>C 雇用促進セミナーの参加と産業現場実習の実施は0社であったが、セミナーに参加できなかった農業法人担当者と相談ができ、次年度の実習実施について検討してもらっている段階である。また、外部講師活用事業でも、作業学習において、3月に農作業の指導を仰ぐ計画をしている。農業法人等との連携ができつつあると考え、C評価とした。今後、より連携を深め、実習や雇用等につながる取り組みを続けたい。</p>
<p>4 業務の効率化</p>	<p>【各課ハンドブックの見直し】 各課ハンドブックを見直す作業を通して業務の平準化を図り、校務支援システムを活用して校務の情報化を図る。(教頭)</p>	<p>【努力目標】 ハンドブック見直しや、校務支援システムの利用を通して、業務の効率化につながったか。</p>	<p>ハンドブック見直しや、校務支援システムを利用して、業務の効率化につながった教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>B以上で達成</p>	<p>C 平準化・効率化が図られたと感じた教員の割合が64%であった。中間評価同様、平準化に比べ効率化の割合が低かった。office365の活用により職員内での情報共有が情報化されたこと、次年度はコロナ対応の経験を生かしたハンドブックを活用することで、より効率化が期待できると考えている。今後も、業務の平準化効率化を意識した各課の運営を継続していきたい。</p>